令和3年度

城ノ内中等教育学校（前期課程）「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○生徒の自主性や協調性を育て，個性や創造性を伸ばす授業の実践
○「対話的な学び」の実践を通して確かな学力を図る～一人一台端末の有効的な活用

学力向上検討委員会構成（前期課程）

学力向上推進員	委員
高見　委三 （進路指導課長）	湊雅邦（校長），安崎輝彦（教頭），井上貴文（教務課長），山田王代（第3学年主任・英語科主任），篠原貴道（第2学年主任・数学科主任），東條良栄（第1学年主任），坂田雅也（社会科主任），仲田一惠（国語科主任），布川匠二（理科主任）

校長

湊　雅邦

【中高連携における共通の取組】

○一人一台端末を有効活用した対話的な学びの実践。
○相互授業参観，意見交換，授業作り交流会等の実施により連携を深める。

【取組状況の把握について】

○授業参観の報告，学力推移調査，学校評価アンケート等，様々な機会を捉え，取組状況の把握・検証・共有を行う。
○学力向上検討委員会による検討結果を全教職員で共有する。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

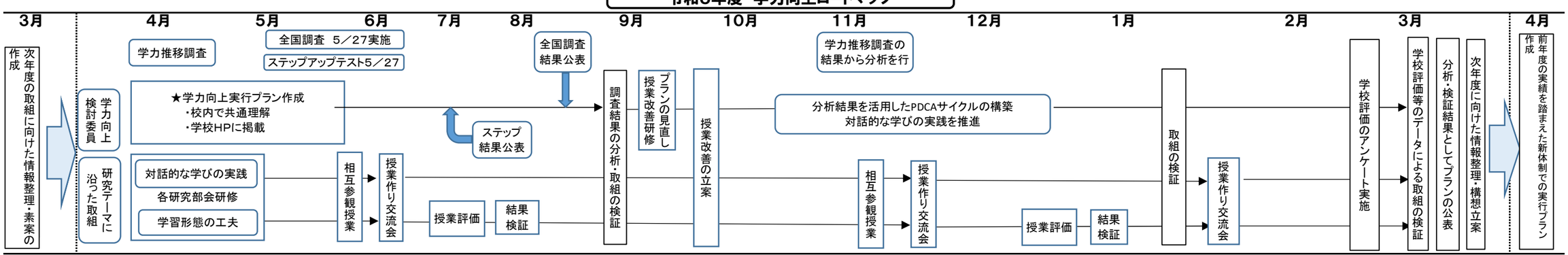
（１）知識・技能の習得

生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については，習得率も高く，与えられた課題にもまじめに取り組むことのできる生徒が多い。 ●個々の知識量に差がある。また，学んだ知識を関連づけたり，身の回りの事象や日常生活と結びつけることが苦手な生徒が多い。	・知識・技能を確実に身につけ，既習の知識・技能と関連づけて活用することができる。 ・自主的に家庭学習に取り組み，学習時間が各学年の掲げる目標時間に達している。 目標時間　1年生：100分 2年生：120分 3年生：140分	・習得した知識や技能を用いる場面を多様に取り入れ，定着を図る。 ・暗記だけに終わらないようにものごとや現象の「どうして」，「なぜ」を考えさせる。 ・定期考査において，基礎的・基本的な知識・技能を問う問題を誤答した生徒への学習支援を，考査後の補習や課題の提出等により行う。 ・学習実態調査を行い，生徒に自分自身の学習時間を振り返らせる。		・各教科において，授業内容の定着を図るために，ICTの活用を工夫して取り組むことができた。 ・「どうして」，「なぜ」と問いかけ，生徒に考えさせる機会を意識的に作ることで，自分の答えを導き出せるようになってきた。 ・定期考査後に必要な生徒に対して補習や課題等の学習支援を行った。 ・学習実態調査を年間5回行い，起床・就寝時刻，学習時間を点検させることで自己の学習習慣を振り返らせた。学習時間は平日の目標時間をほぼ達成できた。1年生144分（目標100分）、2年生159分（目標120分）、3年生146分（目標140分）。	・ICTの効果的な活用方法を模索し，生徒の知識・技能の習得状況を把握したうえで，その定着を図る。 ・発問のしかたを工夫し，生徒が考える機会を作るとともに，その時間を確保する。 ・基礎的・基本的な知識・技能を問う問題で躓いている生徒に対して，学習支援を行う。定期考査後の学習支援だけでなく，普段の授業で，定期的な小テストを実施する等，意欲的に取り組めるような指導の形を検討する。 ・学習習慣が身についていない生徒へHR担任と教科担任が連携を図りながら学習時間を確保できるよう指導する。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通して，自分の考えを表現することができる。他者の意見をしっかり聞くことができる。 ●課題に応じて，自分の考えをまとめることはできる生徒は多いが，主体的に考え，判断しようとする生徒は多くはない。他者の意見から，考えを深められる生徒は多くない。	・学習活動の目的・目標を明確に理解し，各教科の見方・考え方を働かせて課題をつかみ，自分の考えをわかりやすく論理的に表現することができる。 ・他者の考えや新たな知識を取り入れ，課題を様々な視点で捉え，自分の考えをより深めたり修正することを通して，新しい課題の設定や新しい考え方を表現することができる。	・すべての教科でペア学習やグループ学習の機会を取り入れ，言語活動を充実させるとともに，習得した知識・技能を実際に使用する場面を増やす。 ・課題解決のために必要な情報収集や情報整理をさせる。 ・話し合い，発表等，相手に自分の考えをわかりやすく伝える場面を通して，考えを広げ深めさせる。		・コロナ禍のため，ペア学習やグループ学習の機会はかなり減少したが，ICTを積極的に活用しながら，各教科において適切な場面を設定し，できる範囲内で実施することができた。 ・ICT等を活用し，課題解決に向けて情報収集・整理を行う機会を通して，生徒同士で協力する姿や，自ら解決しようとする姿が見られた。 ・ICTを効果的に活用することで，表現活動の場を充実させることができた。	・引き続き，すべての教科において，表現活動を積極的に取り入れていく。また，様々な場面でしっかり自分の考えを書くこと話すことができる生徒を育成する。 ・ペア・グループ学習の苦手な生徒への学習支援をする。 ・発表など自己表現の仕方を他教科と連携し，伝える力を育成する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業に一生懸命に取り組むことができる。与えられた課題にも熱心に取り組み，新しい知識の習得にも意欲的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり，適した課題を設定したりするなど見通しをもって学習に取り組むことに課題がある。	・自ら学習目標を持ち，学習の進め方の自己調整を自発的に行うことができる。 ・学んだ知識や技能を駆使し，日常生活や社会的事象の課題解決に向け，意欲的に考え取り組むことができる。 ・夢の実現に向けて，目標を達成するために，自らの学習状況を振り返り，試行錯誤しながら粘り強く取り組むことができる。 ・各種検定への挑戦など，自ら高い目標を定め，主体的に学習し課題に取り組むことができる。	・各教科の授業において，見通しをもって主体的に取り組むことができるような課題設定を行う。 ・すべての教員が相互授業参観を行い，授業改善を行う。 ・自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫や，自らの考えを記述したり話し合ったりする場面，他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を設定する。 ・各教科担任により検定に取り組むことの意義を伝える。		・めあての共有や振り返りシートを活用し，見通しをもって学習に取り組めるような工夫ができた。 ・すべての教員が各教科で年間4回の研究授業・授業参観を実施した。参観後は，感想や改善点シートを交換し，授業者の言語活動の取り入れ方や授業中の生徒の活動状況等について振り返った。 ・ワークシートや振り返りシートを活用し，自らの考えを相対化する場面の設定が増えてきた。 ・学校評価アンケートにおいて，「検定の受検が学習の励みとなる」と回答した割合は，生徒・保護者とも85%以上あり，おおむね意義を伝えることができた。	・単元が始まる前後で，見通しをもって学習に取り組めるよう，工夫して授業を進めていく。 ・引き続き，授業参観を前期・後期で連携して行い，授業改善に取り組み，6年間を通して，学習に主体的に取り組むことのできる生徒の育成を目指す。 ・ICTを活用しながら，考えの共有や相対化の内容を充実させていく。 ・各種検定の取り組みについて共通理解を持ち，検定受検を通して生徒が主体的・意欲的に学習に取り組むことができるように，指導を行う。

令和3年度　学力向上ロードマップ